慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	川口氏の「スーパー・プレディケート」仮説について
Sub Title	A propos de l'hypothèse du superprédicat de M. Kawaguchi
Author	阿部, 宏(Abe, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2012
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.103, (2012. 12) ,p.228(35)- 243(20)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	川口順二教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01030001-0243

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

川口氏の「スーパー・プレディケート」仮説について

A propos de l'hypothèse du superprédicat de M. Kawaguchi

阿部　宏

0.　はじめに

言語において比較は，さまざまな形態をまとって顕現し，あるいは潜在的に機能するが，比較の働きが最も明快なのは，フランス語 (1) や日本語 (2) のような形容詞によって尺度が提示され，que や「より」によって基準項が導入されるいわゆる比較構文であろう．このように，比較は対象 X を尺度 E 上で基準項 Y^1 と比べる機能である．

(1)　Paul est plus grand que Jeanne.

(2)　太郎は花子より背が高い.

plus と que が直接に結びつく (3) や (4) のような場合もあるが，(3) においては動詞 travailler が，(4) においては前出の形容詞 dur を受けた中性代名詞 le が，それぞれ E を提供することになり，比較の働きは (1) と基本的に変わらない.

(3)　Paul travaille plus que Marie.

(4)　L'étain est moins dur que le zinc, mais il l'est plus que le plomb.

しかし plus que には，(5) のように E を欠く用法が観察される．またこの場合，X（Steve MacQueen），Y（un acteur）に加えて，plus que Y の具体的内容 Z（une icône）が後続文脈上に現れやすい，という特徴がある.

(5)　（腕時計の宣伝）WHAT ARE YOU MADE OF ? / TAGHeur,

SWISS AVANT-GARDE SINCE 1860 / Steve MacQueen est *plus qu'un* acteur. / Comme la Monaco, c'est une icône. / En 1970 dans le film Le Mans, il portait / Le modèle original. / Ainsi commença la légende.

日本語の (2) のタイプはフランス語の plus que と異なり，統語的制約により形容詞を省略することは不可能であり，結果的に E は必ず提示されることとなる．しかし，日本語にはやはり比較に関わる「以上」という表現があり，(5) に対応する (6) のような用法がある．

(6)　単なるコンピュータ以上のもの．… マックが単なるコンピューターではなく，その上の段階の「知の道具」に近づいているとさえ感じてしまいます．（『Mac People』，2009 年 5 月号，p. 168）

「以上」はもともと，Y（例：仙台以北）を導入する「以」と程度が高いこと（例：三歳年上）を表す「上」との合成語であり，形態的にも plus que と対応する．また E を欠くことも多く，むしろ Z（知の道具）が現れやすいという点でも共通性があり．いわば，日本語では，X・E・Y が全て揃った標準的タイプは (2) 型で，X・Y・(Z) タイプは (6) 型で，という分業が行われていることになる．

本稿は，川口 (1995a)[2] が提起した「スーパー・プレディケート」仮説に依拠して，これら比較に関わりながら上述のような E が提示されない用法，具体的には plus que と「以上」の機能について解明を目ざすものである．また「望ましさ」主観性の観点から，「スーパー・プレディケート」概念について若干の拡張の可能性をも検討してみたい．なお，川口は「plus que 形容詞」と「plus que 名詞」は同一原理のもとに分析されうるとする立場である．これは本稿の立場でもあるが，本稿では特に「plus que 名詞」を扱う．

1.　先行研究

言語における比較現象一般，あるいは比較構文に関する研究は数多い[3]

が，当該の現象を正面から扱ったものは川口 (1995a) のみである．本節では，Benveniste (1975) と Rivara (2004) の立場からの説明可能性を検討した後に川口説を紹介し，ついで，「以上」について若干の前置き的考察を加えたい．

Benveniste (1975: 115-143) は，インド＝ヨーロッパ語に比較級を形成する二つの接尾辞（*-yes- と *-tero-）が存在したことを指摘する．古代ギリシャ語やサンスクリット語においてこれら二つの接尾辞の機能はほぼ同じとされているが，インド＝ヨーロッパ語の段階においては，*-yes- は任意の尺度と任意の典型例を前提とし，その典型例より程度が上であること，つまり尺度上での程度比較に関わり，*-tero- の方は，対比関係に置かれた二項を前提とし，一方の選択と他方の棄却，つまり二者択一を意味していた．

したがって，現代語における標準的な比較構文は原則的に *-yes- の機能を引き継ぐものといえるが，興味深いのは，(7) のような典型的比較構文においても，(8) のような *-yes- 機能以外に，(9) のような *-tero- 機能を反映する解釈がありうる，との指摘がなされていることである．この *-tero- 的解釈においては，いわば [(lui) être grand] と [(moi) être grand] という対比関係に置かれた二つの事態があり，ここから前者が選ばれ，後者が棄却される，ということになろう．

(7)　Il est plus grand que moi.

(8)　Il est plus grand que moi qui suis la grandeur même.

(9)　Il est grand, je ne le suis pas.

この Benveniste 説に依拠し，plus que と「以上」の機能について，これらは *-yes- ではなく，*-tero- 的機能が発現したもの，つまり対比関係に置かれた Y と Z の中から，Y が棄却され，Z が採用される，と解釈したい誘惑は大きい．しかし，(5) や (6) において X はあくまで Y であり，Y が否定されるわけではない．また (10) においても，Y は完全に否定されるのではなく，むしろ Y と Z は方向性が同じだが，Z の方がより程度が上の項として提示されているかのようである．また，(11) のような文がこれだけで

自立的であることを考えれば，Z は文脈上に不可欠な要素というわけではない．

(10)　C’est *plus qu*’un conseil, c’est une forte recommandation.

(11)　（自動車の宣伝）La BMW est *plus qu*’une voiture !

Rivara (2004: 79) は (12) のような二つの形容詞が比較される特殊な比較構文を扱い，これは John is laborious と John is intelligent という二つの命題について「真実性」の程度を比較するものである，と述べる[4].

(12)　John is more laborious than intelligent.

ところで，(12) における laborious と intelligent との間には意味的な共通性を見出すことは困難であるが，同種の構文には直観的に plus que との連続性を感じさせる (13) のようなタイプが観察される[5].

(13)　Son ordre est plus absolu qu’impératif.

ここにおいては，absolu と impératif はいわば「相手への要請」という点で意味的共通性を有し，この尺度上の異なる二段階を表している，ともいえよう．標準的比較構文においては，尺度は形容詞などの単一語彙によって与えられたが，(13) のような文から察せられることは，複数の辞項をある方向性に組織化して成立するようなよりマクロな尺度概念がありうるのではないか，ということである．

川口 (1995a) は，plus を用いる比較構文を甲 (14)，乙 (15)，丙 (16) の三類に分類し，甲類は同一尺度上での二対象の程度比較，乙類は二つの尺度上での二対象の程度比較であるのに対し，丙類においてはもはや単一の語彙が提供する尺度ではなしに，同一の性質（例えば (16) では「悪意」）を共有する複数の語彙を統合するような階層が想定されているとし，この性質を「スーパー・プレディケート」としている．

(14)　Jean est plus grand que Marie.

(15)　Paul est plus bête que (il n’est) méchant.

(16)　Pierre est plus que méchant.

乙類の分析において，川口は Rivara 的な「真実性」といった概念に訴えない．(15) においては，Paul について bête の尺度と méchant の尺度でのそ

れぞれの程度が比較され，前者の方が上であるということであり，一つではなく二つの尺度が関与しているとはいえ，その比較の仕組みは結局は甲類と変わらないとする．

しかし，(13) はどうであろうか．構文上は乙類であるが，「スーパー・プレディケート」が機能してくる丙類と同様の観点からのアプローチが可能ではなかろうか．ただし，「スーパー・プレディケート」構築において関与してくるのは，丙類においては（Z が後続文脈上に提示されることはありえても）原則的には Y のみであるのに対し，乙類においては明示的な二つの語彙である．ここに，丙類における「スーパー・プレディケート」が乙類に比べればより話者の判断に依拠したもの，つまりその性質がより主観的なものとなりうる契機があるように思われる．

「以上」について『小学館・日本国語大辞典・第三版』は計八つの語義をあげているが, plus que に対応する語義は第一番目にあげられた「ある数量や程度より上であること」である[6]．しかし注意したいのは，ここに「イ：（数量, 段階などの基準を表す語について）その基準を含んでそれよりも上であることを示す.」と「ロ：（物事を比較するとき，一方の事柄を表す語について）その他がそれより程度が著しいことを示す.」の下位区分がなされていることである．これは現代語に例をとれば，(17) と (18) の違いということになろう．また，(19) と (20) のように，同一の表現であってもこの二つの解釈がありうる．

(17)　20歳<u>以上</u>の国民に選挙権が与えられる．

(18)　お母さんは，お父さん<u>以上</u>に君のことを心配していたよ．

(19)　中学生<u>以上</u>の参加者は，入場料が必要となります．

(20)　高校生ともなれば，中学生<u>以上</u>に勉強しなければならない．

Y が (17) の「20歳」のように一般常識的な既定の尺度（この場合は年齢）を前提とする場合は，Y が基準項のみならずその尺度をも自動的に提示することになり，その場合は「基準項を含んでその上」，つまりイ類の解釈になる．他方，(18) のように尺度「心配の大きさ」が他から与えられる場合は，「基準項を含まずその上」，つまりロ類の解釈になることが了解さ

れよう.「中学生」は既定の尺度上の一段階とも, 単なる基準項とも解釈可能なので, (19) のイ類と (20) のロ類の両方の解釈がありうる. 本論で扱う「以上」の機能はロ類の系統であると考えたい.

2. Plus que の分析

以下の (21) は, 検索エンジン Google, *DISCOTEXTE 1, Textes Littéraires Français 1827-1923*, *Le MONDE diplomatique sur cédérom* から抽出した plus que Y… Z タイプの例における, Y と Z の組み合わせである（Y あるいは Z に複数の語彙が現れている場合は, それらを併記した).

(21) un conseil - un ordre, une sorte de prière, un devoir, une obligation (Google) / une hypothèse - une réalité (Google) / une hypothèse - une certitude (Google) / une fiction - du réalisme (Google) / une théorie - un fait confirmé, un fait social (Google) / *un malheur - un scandale, un crime* (Google) / *un voleur - un assassin* (Google) / un besoin - une nécessité irrésistible (Discotexte) / un progrès - une transmutation (Discotexte) / un sage - un stoïque (Discotexte) / un phénomène - un exemple (Discotexte) / *un paradoxe - un non-sens* (Discotexte) / *un vol - un sacrilège* (Discotexte) / une destinée d'homme - une vie de nation (Discotexte) / une affaire individuelle - une affaire sociale (Discotexte) / *une perte - un déficit* (Le Monde) / un symbole - le signe d'un choix politique (Le Monde) / un simple slogan - une condition essentielle du combat futur (Le Monde) / un consentement, ou un accord - l'établissement de l'unité réelle de tous (Le Monde) / une question de santé publique - une question sociale, une question politique (Le Monde) / une base arrière - une sorte de modèle politique (Le Monde) / *une crainte - une vue pessimiste* (Le Monde) / *une légère secousse tellurique - un véritable tremblement de terre*

(Le Monde)

これらの中には，une hypothèse - une réalité; une hypothèse - une certitude; une fiction - du réalisme; une théorie - un fait confirmé, un fait social など，一見したところ対義的組み合わせのようなものも含まれているが，文脈中では，Y から Z に向かって「現実性」の程度が上がる，という記述になっている．une destinée d'homme - une vie de nation; une affaire individuelle - une affaire sociale も一見は対義的組み合わせであるが，Y から Z に向かって当該の事態の「規模」が拡大する，ということである．したがって，Y と Z は「同一の性質」を共有しながら，その性質の尺度上でいずれにおいても Y から Z へと程度が上になる，ということが一貫して観察され，総じて川口の「スーパー・プレディケート」仮説を裏づける結果となっている．

しかし注目したいのは，(22) – (25) に見られるような，Z は単に Y よりも程度が上というのみならず，X についてはあくまで Y が事実であり，Z は一種のメタファーで，かつ話者にとって非常に望ましい対象として提示されている実例も散見されることである．上掲 (5) もこのタイプであった．

(22) Marseille, c'est *plus qu*'une ville, c'est un pays. (Google)

(23) – Je veux écrire à mon père, lui dit un jour Mathilde; c'est *plus qu*'un père pour moi; c'est un ami ... (Discotexte)

(24) M. de Lamennais était *plus qu*'un écrivain alors, c'était l'apôtre jeune qui rajeunissait une foi. (Discotexte)

(25) （調理器の広告）Le Cooking Chef est *plus qu*'un robot, c'est un véritable assistant culinaire.

これらの例が述べるのは，「X はあくまで Y だが，あまりに程度が高いので, Z という「非常に望ましい」対象を連想させるほどだ. 」ということになろう．したがって，例えば (22) においては，「都市の規模」，(23) においては「親密さ」が一応は E と考えられようが，それだけではなく，ここには「望ましさ」尺度[7]も重なり合って「スーパー・プレディケート」として機能していると考えられよう．

川口の乙類においても「スーパー・プレディケート」が関与しうること

を (13) で見た．しかし，Z が提示されることが多いとはいえ，構文上は Z が不要な丙類においては，「スーパー・プレディケート」が依拠する「同一の性質」に対する解釈の幅が広くなるために，「望ましさ」という主観性の介入を招きやすく，結果的に「望ましさ」の典型例としてのメタファー項の提示も許容されることになるのであろう．これに対し，「スーパー・プレディケート」を構成する二項が明示される乙類では，「同一の性質」は二項間関係から一般常識にもどづいて自動的に引き出されるものであり，ここにおいては話者の主観的関与の余地は少ないということである．

ところでさらに興味深いのは，Z が明示されない実例も頻度が高く，この場合に「スーパー・プレディケート」が依拠する「同一の性質」はさらに曖昧なるが，それに反比例して「望ましさ」が前面に出てくる，ということである．このことは，(26) や (27) のように自社製品の差別化を狙った広告に頻出することからも了解されよう．

(26)　（辞典の広告）Le Petit Larousse 2010 sur CD-Rom, c'est *plus qu*'un dictionnaire : 59 000 noms communs, 28 000 noms propres et tous les mots nouveaux de l'édition 2010. 2 100 photographies et dessins. 60 tableaux et listes de référence ...

(27)　（ビールの宣伝）1664 / [Il s'agit d'une image de la tour Eiffel] C'est un peu *plus QU*'UNE ANTENNE / [Il s'agit d'une image de la bière] C'est un peu *plus QU*'UNE BIERE / LE GOUT A LA FRANÇAISE

(28)　le poète est souvent *plus qu*'un homme. (Discotexte)

(29)　Je rêve d'une télévision qui donne envie de vivre le monde et pas seulement de le regarder. Une télévision de participation bien *plus que* d'observation. Elle serait une sorte de "coach" qui motive pour sortir, parler, partager, participer à l'aventure collective de l'humanité. (*Reader's Digest Sélection*, juillet 2006, p. 142)

関連して，(30) - (33) のような X と Y に同一表現が現れるタイプの存在

を指摘しておきたい．X 自体が plus que X であるとは，E として何を想定しようとも矛盾した主張であることに変わりはなく，この構文は一種の矛盾文ともいえよう．

(30)　（映画の広告）Quand un film est *plus qu*'un film ...

(31)　On connaît l'adage : en Russie, un poète est *plus qu*'un poète. (Le Monde)

(32)　L'amour, c'est beaucoup *plus que* l'amour. (Titre d'un des livres de Jacques Chardonne)

(33)　Dans sa préface au présent ouvrage, Jean-Claude Carrière affirme "Un enfant, c'est *plus qu*'un enfant". Et il ajoute "C'est même souvent beaucoup *plus qu*'un adulte". (Google)

この構文では, 基準項に置かれる X は一般通念でとらえられた X の概念であり，文は主語として置かれた対象 X の「望ましさ」が常識的に考えられているより実際は程度が上であることを主張している．したがってここでは,「スーパー・プレディケート」が依拠するはずの「同一の性質」はほとんど機能しておらず，比較はもっぱら「望ましさ」尺度上でのみ行われている，といえよう．

3.　「以上」の分析

「以上」は構文上 E を必ずしも必要としないが，これは常に E が不在である，ということではない．構文に拘束されないという理由から，E は同一文内や文脈上にさまざまな形で提示されうる．例えば，(18) と (20) ではそれぞれ「心配の程度」と「勉強の量」, (34) では「気遣いの程度」が E として提供されている．(35) において E は「逆上の程度」なのか「逆上の頻度」なのか，あるいはその両者なのかが曖昧ではあるが，いずれも「逆上」が量化されて E として機能していることは明かである．

(34)　人への気遣いの点では，太郎は花子<u>以上</u>だ．

(35)　いつも貶されていると思い，批評家に腹を立てているのは俳優, 特に女優に多い．いくら褒めても, たったひとことの

批判で逆上するのは作家以上であろう．文筆による反論ができないものだから怒りと憎しみはつのり，いざ対面した時には剝き出しの反感が批評家を襲う．（筒井康隆（2010）：『アホの壁』，新潮新書，p. 124）

「以上」において E が明示的に提示されない場合は，plus que Y ... Z タイプと同様に，Y と Z との組み合わせにより「スーパー・プレディケート」が構成されることになる．この例が (36) と (37) であるが，(36) においては「マニア」が，(37) においては「狂人」がそれぞれ Z にあたる．(36) においては「専門知識の程度」, (37) においては「性格の極端さ」などが「同一の性質」として考えられよう．

(36) では、これら（スピーカー、アンプ、プレーヤー）をどのような基準で選べばいいのか，どのように使いこなすのか．暗中模索のオーディオ道を一気に切り開く，どこまでも実用的で, 生きた教養．“初心者以上 マニア未満”におくる麻倉流「オーディオの作法」．（麻倉怜士（2008）『オーディオの作法』ソフトバンク新書、裏表紙）

(37) （当時の小泉純一郎総理に郵政民有化を思いとどまらせるべく，森喜朗元総理が首相官邸を訪ねた件について）出されたのは缶ビール十本と干からびたチーズであり，森氏は握りつぶしたビールの空き缶を記者団に突き出して，「こうなると変人以上だね」と憤慨してみせた．／「変人以上」と言うのは「狂人」ということに他ならないと誰しも思うだろう．（小田晋「小泉純一郎の精神分析」，『Will』，2005 年 11 月号，p. 91））

しかし，E が与えられないのみならず Z も提示されない場合は，plus que の場合と同様に「スーパー・プレディケート」が依拠する性質は曖昧になり，それに反比例して「望ましさ」が前面に出てくる．例えば (38) と (39) において，「内容」,「お値段」をそれぞれ一項として含む何らかの「同一の性質」は想定困難ではなかろうか．他方，ここにおいて「望ましさ」の関

与は明白であり,「内容以上のこと」,「お値段以上」はそれぞれ「内容も「望ましい」が, それよりも「望ましい」事柄」,「値段から予想される「望ましさ」をさらに超えた「望ましさ」」を意味する.

(38) 対談の後には，毎回，お酒をご一緒させていただいた．そこで，私は対談の内容以上のことを学んだ．それは，私の人生の重要な道しるべとなることだろう．（中島岳志「保守の空洞化に抗う」，中島岳志・西部邁『保守問答』，講談社，2008，p. 5）

(39) （某スノーボードウェアについて）お値段以上です．上下セットでこの価格ですが，防水性も特に問題なく使用できそうです．（Google）

3. ネガティブなY

(21) に提示した Y と Z の組み合わせにおいては, ネガティブな意味の語彙が Y として提示され, さらにネガティブな項として Z が提示されているものが含まれていた（イタリックで示した）．形容詞の例ではあるが, 川口の提示した (16) もこれにあたり，また「以上」においても (37) はこのタイプになろう．この観察と,「スーパー・プレディケート」に関与してくる「望ましさ」尺度（Y から Z へと「望ましさ」の程度が上がる）とは一見矛盾する.

ここで，事実観察としては，(40) と (41) に示されるように，ネガティブな Y の場合に，Z がさらにネガティブなものとして提示される可能性と，むしろポジティブなものとして提示される可能性とがありうることを指摘したい.

(40) Il est *plus* qu'un voleur, c'est un assassin !

(41) Arsène Lupin, beaucoup *plus qu*'un (simple) voleur, c'est un héros !

「スーパー・プレディケート」は「同一の性質」を共有する複数の辞項によって構成されるもので，この基本的機能を最も反映するものが乙類の

(13) のような例であった．この段階では，「スーパー・プレディケート」は二項間の意味的関係からほぼ自動的に構築され，ここに話者の主観性の関与の程度は少ない．他方，丙類では構文上の理由により「スーパー・プレディケート」構築がより自由になされ，場合によっては「スーパー・プレディケート」が「望ましさ」のみで機能するケースもあった．「スーパー・プレディケート」が依拠する尺度が「同一の性質」から「望ましさ」へ連続的に比重を移すなかで，丙類の plus que Y ... Z には，このさまざまな段階のものが混在していると考えられよう．

したがって，ネガティブな Y からさらにネガティブな Z が提示される例は，「望ましさ」尺度がまだ関与しない段階の「スーパー・プレディケート」の基本的機能が働いたケースであり，例えば (40) では，いわば「犯罪者度」のようなものが E として想定されている，と考えられる．他方，ネガティブな Y であっても，ポジティブな Z が提示されれば，「スーパー・プレディケート」をもっぱら「望ましさ」で機能させうる可能性が出てくる．(41) がこれである．

4. Moins que と「以下」

Plus que と「以上」の対義表現ともいえる moins que と「以下」について補足的な指摘をしておきたい．興味深いのは，これらはその機能において前二者のそれぞれと必ずしも対称的関係にはないことである．

Moins que と「以下」においては，X の性質の記述というよりは，その「望ましくなさ」の主張に主眼があり，「スーパー・プレディケート」は「同一の性質」よりは「望ましさ」に依拠して機能するケースがほとんどである．また，(42) - (45) に見るように，「望ましくなさ」の典型例が Y として提示されることが多い．「望ましくなさ」の典型例よりもさらに「望ましさ」が低い，とすることにより，X の「望ましくなさ」が強調されることになる．

(42) Un fils ingrat est *moins qu*'un étranger; c'est un coupable, car il n'a pas le droit d'être indifférent pour sa mère. (Discotexte)

(43)　Dans cet Etat un ouvrier est *moins qu*'un chien. (Google)

(44)　「人間はゴキブリ以下の存在」とはぼくの口癖だ。人類はその発生以来、愚劣の繰り返しだからだ。（安原顯 (2002)：『ハラに染みるぜ！天才ジャス本』，春風社、p. 379)

(45)　佐藤　それははっきり言って，街のチンピラみたいな話じゃないですか．ガンつけたな，みたいな話で．高等教育を受けてネクタイを締めて仕事をしている人間のスタイルじゃないですよ．／村上　しかし，向こうは私に言うんだよね.「おまえ，チンピラ以下だ」って.（笑）（村上正邦・佐藤優（2008）：『大和ごころ入門』，扶桑社，p. 36）

5.　まとめ

比較における尺度は，形容詞などの語彙的単一項によって明示的に提供されるのみならず，複数の語彙を組織化する統合的な性質の尺度がありうる．川口氏はこの「スーパー・プレディケート」仮説により plus que を分析したが, これは日本語の「以上」にも適用可能である．本論においては, plus que においても「以上」においても,「スーパー・プレディケート」への「望ましさ」主観性の関与の可能性について指摘した.

なお，こうした比較現象への「望ましさ」の関与は，概念カテゴリーにもとづいた操作に密接に結びついたものと考えられよう．plus que や「以上」においては,「望ましさ」の点で均質にとらえられた任意のカテゴリーから,「望ましさ」の程度が上であるカテゴリーの方への逸脱を述べることで，対象の「望ましさ」を強調する，という仕組みが想定可能であるが, これは (46) のような矛盾文[8]にも共通するものと考えられよう.

(46)　（高度な視聴覚機能を備え柔軟な動きを示すロボットについて）Ce robot n'est pas (plus) un robot !

ところで，川口 (1995a: 227) は「plus que 形容詞」について「性質の典型的，中心的値に向かう方向性」について言及している．こうした方向性に「望ましさ」主観性が関与した場合は，中心に向かえば向かうほど「望

ましさ」が増すといったカテゴリー観が想定可能で，実際に (47) に見るような「Xの中のX」[9]はそのようなカテゴリー構造に依拠しているのではなかろうか.

(47)　これこそ，ロボットの中のロボットだ！

しかし，(46) と (47) における「ロボット」は，いずれも「望ましい」ものでありながら，その「ロボット」像はかなり異なっている．いわば，(46) はもはや「ロボット」らしくないので「望ましい」のだが，(47) はいかにも「ロボット」らしいので「望ましい」のである．とすれば，比較現象に「望ましさ」が関与してくるケースにおいて，「カテゴリー外へ」と「カテゴリーの中心部へ」という方向性の異なる二種類を一般的に仮定すべきなのであろうか．また，plus que や「以上」については，「カテゴリー外へ」であると当面は考えているが，「カテゴリーの中心部へ」という方向性もありうるのだろうか．今後の検討課題としたい.

【参考文献】

阿部宏 (1998)：「展望・比較構文」，『フランス語学研究』（日本フランス語学会）32号，pp. 45-51.

Abé, Hiroshi (2006) : A propos de la notion de désirabilité dans le langage, *Cognition et émotion dans le langage* (Edité par J. Kawaguchi, K. Kida et K. Maejima), Keio University, Center for Integrated Research on the Mind, pp. 207-222.

阿部宏 (2009)：「日本語における「望ましさ概念」について」，*Civilisation of Evolution, Civilisation of Revolution, Metamorphoses in Japan 1900-2000*, A. Jablonski, S. Meyer & K. Morita (eds.), Museum of Japanese Art & Technology Manggha, Krakow, pp. 81-94.

阿部宏 (2012，印刷中)：「フランス語のムードとモダリティ」，『モダリティ I：理論と方法・ひつじ意味論講座第３巻』，ひつじ書房.

Benveniste, Emile (1975) : Noms d'agent et noms d'action en indo-européen, Adrien Maisonneuve.

川口順二 (1993a)：「plutôt について」，『藝文研究』（慶應義塾大学）63号，pp. 271-288.

川口順二 (1993b)：「plutôt と多義性について」，『フランス語学研究』（日本フラ

ンス語学会）27号，pp. 1-18.
Kawaguchi, Junji (1994) : Référence intratextuelle déictique, référence intertextuelle et localisation comparative,『日仏語対照研究論集―平成4~5年度日仏会館・石橋財団研究補助金による研究―』（日仏語対照研究会），pp. 75-92.
川口順二 (1995a)：「Plus を用いる比較級構文をめぐって」,『藝文研究』（慶應義塾大学）67号，pp. 219-231.
Kawaguchi, Junji (1995b) : Altérité et comparaison, à propos de *hoo* sino-japonais, *Cahiers de Linguistique Asie Orientale* 23, pp. 141-153.
野呂健一 (2009)：「現代日本語の名詞反復構文―構文文法と類像性の観点から―」,『認知言語学論考』No.9，ひつじ書房，pp. 139-176.
Rivava, René (2004) : Le comparatif aléthique, *Pragmatique et Enonciation*, PUF, pp. 71-92.
斎藤倫明 (2009)：「第２章　語彙史としての語形成史」,『語彙史・シリーズ日本語史２』（安部清哉他），岩波書店，pp. 35-72.
安井稔他 (1987)：『例解・現代英文法事典』，大修館書店.

【データベース等】
DISCOTEXTE 1, Textes Littéraires Français 1827-1923, Une base de données regroupant 300 œuvres littéraires et un logiciel d'analyse, 1992, CNRS – Hachette – BUREAU van DIJK
http://www.google.co.jp/ig?hl=ja#t_0
Le MONDE diplomatique sur cédérom, Archives 1978 – 2006
『日本国語大辞典・第三版』，小学館.

【註】

1　Y が文脈・状況から明らかな場合，フランス語では省略が可能だが，日本語では省略すれば比較構文ではなくなる（文脈・状況から明らかな場合は，フランス語とは異なり X の方の省略が可能である.）．しかし，Y 導入辞の「より」をフランス語の plus のような比較級のマーカーとしても機能させ「太郎はより背が高い.」とすれば，Y なしにも比較構文として機能する.

2　川口 (1995a) は, plutôt の多義性を扱った川口 (1993a), 川口 (1993b), plus haut，plus bas などに見られる plus の特殊な機能を分析した Kawaguchi (1994)，日本語「方」と比較の問題を扱った Kawaguchi (1995b) などの一連の比較級研究の一部である.

3　阿部 (1998) は，網羅的なものではないが，比較構文に関する研究を概観し，関連文献を紹介したものである．

4　しかしこの構文においては, Le mur est plus épais que haut. のように明らかに二つの尺度上での程度比較（厚さと高さのそれぞれの程度の比較）になるものもあり，(12) においても，laborious と intelligent という二つの尺度上での程度比較なのか，何らかの一つの尺度上での程度比較なのか，必ずしも明確ではない．

5　英語では (12) タイプの Y は節に書き換えが可能だが, (13) タイプの Y はそれが不可能であるという興味深い違いがある：He is more industrious [than intelligent / than he is intelligent].; He is more slim [than lean / * than he is lean]（安井 1987: 522）．この違いは，関与する尺度が二つか一つか，という問題との関連で非常に示唆的でもあるが，フランス語の同種の構文では英語におけるような統語上の明確な差異は見いだせない．

6　斎藤 (2009: 59) によれば，これは漢籍を引き継いだもので，すでに 700 年以前から確認される「以上」の最も古い語義，とされる．

7　「望ましさ」主観性について，「ある事態や対象について，話者が「望ましい」あるいは「望ましくない」と判断する働きで，「真実性」と同様に尺度化して機能することも多い.」という定義を与えておきたい．モダリティ研究は「真実性」主観性をもっぱら研究対象としてきたが，それと平行して「望ましさ」主観性が存在すること，「真実性」と「望ましさ」が du moins ／ au moins のようにペアになって役割分担されている場合もあること，などについて一連の論考で扱ってきた．（v. Abé (2006)，阿部 (2009)，阿部 (2012)）．

8　矛盾文には，（ある故障したロボットについて）Ce robot n’est pas un robot ! のようにマイナス評価になるもの, (46) のようにプラス評価になるもの，（あるロボットのように見える物体について）Ce robot n’est pas un robot. Un homme est dedans. のようにマイナス評価もプラス評価を含まないもの（疑似矛盾文），の三種類がある．（阿部 2012）

9　阿部 (2009) は「X の中の X」は「望ましい X」を意味すると考えるが，野呂 (2009) はあくまで「「顕著な属性」をもつ X」であるとする．